

議 事 録

会議名称	第3回小松市未来型図書館基本構想策定委員会
日 時	令和4年10月25日（火）13時30分～16時30分
場 所	小松市公会堂4階大会議室
出席者	（敬称略・順不同） 小松市長 宮橋 勝栄 小松市教育委員会教育長 石黒 和彦 小松市未来型図書館基本構想策定委員会委員7名 座 長 平賀 研也 委 員 金子 哲也 委 員 久保 由味子 委 員 道券 悠一 委 員 中村 知恵 委 員 山元 加津子 委 員 尾木沢 響子 代 理 廣田 有希雄（金子 哲也委員欠席のため） 事務局（生涯学習課未来型図書館づくり推進チーム、小松市立図書館） 横山、坂下、千葉、吉田、界、中山、梶谷、加藤 支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社（以下「a r g」）） 李、有尾、西谷
欠 席 者	副座長 西村 聡、委員 金子 哲也
次 第	1. 議事 （1）未来型図書館のビジョン・コンセプト案と機能検討について （2）今後のスケジュールについて （3）その他
配布資料	【資料1】第2回・3回未来型図書館つながるミーティングについて 【資料2】未来型図書館のビジョン・コンセプト案と機能検討について 【資料3】未来型図書館の立地候補エリアについて 【資料4】今後のスケジュールについて 【資料5】未来型図書館ニュースレター第5号
傍 聴 者	2名

<会議内容は下記のとおり>

挨拶（宮橋市長）

今年度スタートの当委員会も、いよいよ折り返しに差し掛かっている。これまでのワークショップを通じて、市民のみなさんが「市民と共に創る未来型図書館」を自分事として捉えていただき、積極的に参加いただいていると実感している。

2040年までのまちづくりの指針となるビジョン作成を進める中で、先日実施された意見交換の場でも、公立小松大学の学生たちから「図書館」「複合型」などのキーワードが出ている。図書館と一緒に築いていきたいという思いをしっかりと育んでいきたい。

図書館づくりにおいても、ハードだけでなく、図書館エディター養成講座や子ども司書養成講座など、図書館ができる前から携わる活動もスタートし、子どもたちが積極的に参加している。図書館づくりを通して子どもたちや市民の皆さんが活躍できる場をつくり、リビングラボ、つながるミーティングなど市民が参画できる場へとつなげていきたい。

候補地については事業手法も含めて、市としても研究を重ねて行きたい。

本日は挨拶のみでの退席となるが、引き続きご意見いただき議論展開していただきたい。

1. 議事

（1）未来型図書館のビジョン・コンセプト案と機能検討について

①第2回・3回つながるミーティングの開催報告について a r g より説明。（資料1）

【主な質疑応答・意見交換】

平賀座長	実際にまち歩きを通して、小松市民でない自身もどんな人が暮らしているのか、これからどんな図書館をつくりたいのかを参加者のみなさんと一緒に整理できた。まち歩きをしながら、参加者からまち歩きエリア外の市全体の話なども聞いた。今、バラバラに見えている公的な役割がもっと繋がっていくのではないかという話も出てきている。委員会で議論していることが抜けていることもあるだろうし、第1回の市民ワークショップでしか出ていないものもあるだろう。それらを合わせて伺いたい。
中村委員	年代も職種も違う人たちと一緒に取り組めたことで、様々な視点を共有でき、多くの考え方があると感じた。
久保委員	これまで疑問を感じなかった馴染みの場所にある各施設が「なぜバラバラなのか」という指摘を受けるなど気づきがあった。
事務局 坂下課長	普段、車を使う場所を歩いてみることで多くの気づきがあった。それぞれの施設がバラバラであり、もう少し連携できればと実感した。
平賀座長	このような施設があることを知らなかったという市民の声もあり、それぞれ自分の狭いニーズで施設を使っている部分もあるというのが実態なのだろうと感じた。

②未来型図書館のビジョン・コンセプト案と機能検討についてa r gより説明。（資料2）

【質疑応答・意見交換】

つながるミーティングと基本構想策定委員会での議論を統括した4つのポイントについて	
平賀座長	ワークショップから基本構想へどうつながっていくのか示してもらった。これまでの話し合いを整理の上、未来型図書館の定義としてビジョン・コンセプトに分けて考えることを提案いただいた。 はじめに、P3「つながるミーティングと基本構想策定委員会の議論を統括した4つのポイント」について、これまでの話し合いから漏れていることなどがないか等意見をいただきたい。
廣田 委員代理	コミュニティがテーマとなっていると感じた。市民が希望しているものの中心にコミュニティがあり、それがビジョンに沿っているか検討していけたらと感じた。
山元委員	この場での話し合いの目的を、わかりやすく示していただいた上で、ビジョン等の提案があればより理解が深まる。カタカナ文字は意味を何度も調べる必要があり、馴染みがない言葉もある。
a r g 有尾	長い施設づくりにおいて、現在、基本構想の段階にあるが、今日まで話し合われた様々な内容が途切れないように固めていくため、ビジョン・コンセプトを設定する。今回、包括的・抽象的な言葉を「ビジョン」として、より具体的な言葉を「コンセプト」として位置付けており、その提案に対してご意見いただきたい。
山元委員	この時間に何を決める必要があるのか目的をはっきりしていただければ、わかりやすいのではないか。この言葉は何に使うのか等の説明をした上で進行していただくと助かる。
平賀座長	基本構想は市民へ思想を示すものであり、それを決定するのが当委員会である。新しい未来型図書館がどのような方向性（事業体制、用地等も含む）であるかを基本構想には記載する必要がある。その上で機能の話をしたい。本日の目的はビジョン・コンセプトの提案内容を叩いていくというのが目的。表現が妥当であるか適切な表現であるか等ご意見をいただきたい。これまで話し合ってきたことが盛り込めているか、漏れている要素がないか等、ご意見をいただきたい。
久保委員	膨大な情報からよく整理されている。内容についても良いと思う。図書館だけでなく、自身の団体にも必要と感じるが、改めて、人の大切さを感じた。 「自らの手で」や「すべての人にひらかれる」など、人が根本にあることが伝わる。
中村委員	「未来型図書館」自体が分からない状態で、その時その時に何を求められているのか分からないまま既成概念なく参加し、回を重ねるなかで、このようなかたちに持つていくための手順だったのかと理解した。提案内容はとてもわかりやすく感じている。国際交流でもダイバーシティという言葉は分かりにくいですが、「すべての人にひらかれ」という言葉に言い換えることで伝わりやすくな

	っている。カタカナ言葉を多用しない提案は分かりやすく示されている。良いと思う。
平賀座長	国際関係でも未来型図書館で活動するときに、どこに該当するのかイメージできるということか。「自らの手で」「多文化共生」では示しきれないところを押さえて複合ではなく融合施設らしさを感じる。
尾木沢委員	金沢市民芸術村の関係者が熱意を持って語っていた内容が「すべての人にひらかれている」「市民参加」だった。新しい小松のまちづくりとして「すべての人にひらかれ」、「みんなの手でつくっていく」ことを目指し、まちが元気に丈夫になって「つながっていく」ことが重要。自分のやりたいことを見つけたり、官がつくるのではなく市民が主体的に運営していくことが、ビジョンでもより示せば、コンセプトはついてくると思う。ビジョンは2つでもいい。
山元委員	みんながキラキラ輝けて、学びたい人が学び、教えたい人が教えるような関係ができればと思い素晴らしいと思う。
事務局 梶谷	今の段階では、どの表現も分かりやすくなっている。座長が言い換えて表現したサブ的な内容があると理解がより進む。
平賀座長	行政的な表現をサブ的な説明として追加することで範囲を狭めてしまうこともあるが、補足はあってもよいかもしれない。「ひとや情報がつながることで循環が生まれる」などから、「これまで小松市がまちを通じて共有してきた情報や知恵を蓄積していき、博物館と図書館が連携していく」などアイデアにつながっていく。
事務局 横山	当初、策定委員会やつながるミーティングがどのように進み、結果がどうなっていくかは自分たちにも分からなかった。まち歩きやワークショップを通して市民とともに気付きながら考えてきたことは大きな成果と捉えている。施設ができて完了ではなく、そこに集まるスタッフや利用者の輪をいかに広げ、様々な活動が生まれ循環できるか、市民と共につくり込んでいけるかが大切であると思う。提案内容はやさしく分かりやすい言葉で描かれている。
平賀座長	ようやくプロセスが見えてきた。ソフトの部分をこの先どうつくり込んでいくか、より議論をより深めていきたい。先日、長野県白馬村で子どもたちのためのフェスを実施された。観光客向けでなく、市民のためのフードトラックや、ものづくりワークショップなどがあった。こういうことがやれたら、より実感を持って未来型図書館をイメージしていただけたらと思う。基本計画段階になるかもしれないが、こうしたことも今後共有をしていきたい。
事務局 中山	定義もないところからのスタートで、何も決まっていなかったその面白さを感じる。提案内容からこれまでのワークショップなどの断片が浮かび、市民と共につくってきたことが言葉になってきた喜びがある。引き続き皆さんと対話を続けていきたい。
事務局 坂下	生涯学習課課長という立場から、図書館づくりだけではなく、公共施設づくり全般に関わってくることなんだと改めて感じている。市民の生涯学習をサポートしていくことに通じていくことだと感じる。

平賀座長	施設が担う役割の核が何か、施設のあり方だけでなく、この施設・機能が生涯にわたる学びやまちづくりの何を担っていくのかを今後明確にしていきたい。
尾木沢委員	意志のあるものとして「支える」「つくる」という言葉がビジョンになっていくと思うが、循環が自動的に起きている状態とは違うのではないかと思う。「生き生きとした循環が生まれる」は、「生き生きとした循環を生み出す」という表現に変えた方がよい。
a r g 有尾	現状の記載は自然発生的な表現になっているので、能動的な表現に調整していきたい。

ビジョン案について	
平賀座長	ビジョンについては能動的な表現とすることを心掛けた方がよい。図書館とは知の循環を生むという前向きな表現になりにくい、図書館が市民の行動に向かっていけるような記述を追加したい。 以上、みなさんの議論をすくい上げたポイントとしておおよそ網羅されているだろうという認識を得たところで、ビジョン案の検討に入りたい。
a r g 李	ビジョンについて能動的な言葉使いについて補足したい。形（名詞）にしてしまうとゴールになってしまう。これから変わっていく社会や地域など、持続していくことが重要だと考えて、動詞で言い切るような提案をしている。
a r g 有尾	案①の「編む」では情報／人（関係性）／時間等の軸を編み上げていくことを表現できる一方で、循環を表現することが難しい。案②の「巡らす（これまで・いま・これから）」は多様な循環はカバーできるが、網羅する対象が多く、複雑になってしまうという課題はある。
平賀座長	「編む」とはすでにある対象物を加工編集していく、どちらかという静的な印象。一方「巡らす」のは人に主体があり、2つの案を比較すると、どちらかという動的な印象を持つ。どちらかを選ばず、「こまつを編む、こまつを巡らす」もよいのではないかと感じている。
a r g 李	「編む」はより関係性に重きを置いている。一方向の関係ではなく、相互的な関係を示したいという思いと、まち歩きなどを通じて小松には既に多くの資源があるが、活かしきれていないことをみなさんの議論やワークショップから感じたため、意味に込めている。
久保委員	「舟を編む」という小説もあったが、「こまつを編む」というのは面白いと思う。シンプルな方がよいのではないか。
中村委員	どちらかは決めかねる。「編む」はシンプルであるが、少し分かりにくくも感じる。「巡らす」も分かりやすくも感じるが、複雑になってしまう懸念はある。主体的な“人”という観点でもどちらの案も言えそうである。
尾木沢委員	「編む」は分かりやすいと思う。「巡らす」は謎めいていて興味をそそらせる。2つどちらもあってもよいのではないか。
山元委員	「堀や囲いを巡らす」など、ある決まった範囲という意味を持ってしまうのではないか。普段使う言葉ではない印象を受けた。縦横を「編む」なら、「織

	る」もいいのでは。「編む」は空間も対象となるのでよいと思う。「巡らす」にはぎゅっと囲われた印象があった。
a r g 有尾	「巡る」では自然的な印象があるため、主体的なニュアンスを付加する意図で「巡らす」としたが、マイナスなイメージがつくということも意識しないといけないと感じている。
廣田 委員代理	ビジョンはこれからの方向を360度示すと思う。漢字のなりたちから見ると「巡らす」は川の流れに沿って巡っていくことを示している。コミュニティの希望を織り込んでいこうという思いがあれば「編む」の方がよいのではないかと思う。
事務局 加藤	3回目のワークショップに参加して、小松市内に点在している施設の機能・サービスをすべての人が受け取ることができない話がでていた。誰もが受け取れる場所がつくれたらよいということから考えて、「編む」「織る」から既存のものを活用することが思い浮かんだ。「巡らす」には新たなものを含んでいく広がりを感じられる。どちらもよい。
事務局 界	普段は市の建築審査の担当をしている。ワークショップや策定委員会に参加して、新しいこと以上に、これまであったが機能していなかったことが対象となっていると思った。市民が持っているものを反映することが未来型なのではないかと感じた。直感的に「巡らす」という言葉は素敵だと感じた。建築的なトレンドとして、新しいものは物珍しくて多くの人々が訪れるが、未来型とは更新していくことであるのではないかと思う。建築的な話でいうと、建物を壊さず循環させて、一つの建物の機能を更新して長く使っていくという考え方になるのではないかと思う。
事務局 千葉	スマートシティ推進課から参加している。個人的には「編む」を推したい。まちをデザインしていく・再編していくという視点を持たなければ価値観を変えていくことはできないだろうという認識がある。また編集的、デザインの観点で「編む」という考え方は非常に重要だと思う。ただし「まちをデザインする」というような言葉は使い古されている部分もある。ひらがなで「あむ」でもよいのではないか。「巡らす」よりも「編む」の方が意味や思いが込められているのではないかと思い、「編む」を優先的に選べたらと思う。
平賀座長	博物館美術館、古文書、大学、産業それらの機関連携をどうつくっていくのかという点で編むという言葉は大切だと思う。
事務局 吉田	編み物に壮大な世界という印象があったことから「編む」がよいと思った。先ほどの統括の4つのポイントには、地域ブランディング論の大学生が提案に入っていたデジタルや新しい技術に関する観点はここに含まれていない。おそらくワークショップの参加者にはこの分野に詳しい方が少なかったため、あまりその議論が深まらなかったのではないかと感じる。
平賀座長	この30年のICTの激変拡張によって、知ることの体験など変化が起こっていることをどう組み込んでいくのか考える必要がある。

事務局 横山	「こまつを編む、こまつを巡らす」と、2つをつなげてというかたちを推したい。市民と共に創る上で、私たちに求められていることは、一人一人のアイデアや想いをいかに編み込んで、想いを巡らせていけるかである。
事務局 中山	これまで未来型図書館を自分事として考えていこうと進めてきた。主体的に取り組むことを大切にして進めるためにも、どちらも使っていきたいと思う。
事務局 坂下	「編む」はシンプルでよいと思ったが、これまでの話を伺って「巡らす」もつながる要素がたくさんあり、とても分かりやすく両方とも捨て難い。

コンセプト案について	
平賀座長	ビジョンを実現するために施設が担うべき役割として3つ（「こまつベース」、「こまつコモンズ」、「こまつキャンパス」）の要素、またそれぞれに考えられる要素をまとめてもらっている。本当の意味での複合・融合施設を描いていくために、このコンセプトからイメージして思うところについて意見をいただきたい。
廣田委員 代理	雑居ビルでなく複合施設・融合施設であるためには、ビジョンがしっかりあり、それに則って同じ方向を向いて活動できるようなコンセプトがあることが重要かと思う。コンセプトは3つで、三角で連携しており、それはいくつあってもよいと思うが、一体化している必要があると思った。また、ビジョンとコンセプトの向いている方向の違いについて気になった。順序だてて考えてきていることによって、コンセプトがどれも内向きになっていると感じた。まちの外についても目を向けていけるとよい。
a r g 有尾	順序のとおりビジョン、コンセプトと検討をすすめた。施設自体がどのようなものか見えにくくなってしまうため、初回のワークショップで出た具体的なバラバラな状態だった意見をつなぎ合わせるものは何か考え、コンセプトを練った。こまつベースは外側に向けた意味合いを含んでいるが、ご指摘の外への視点も感じられるような表現へ調整していきたい。
平賀座長	機能表現に情報の集積発信等のレイヤーがあってもよいのではないか。つながるミーティングでもよく出てきた、小松市内と外を「ハブ」という表現についてはいかがか。
a r g 有尾	「ハブ」はワークショップでも中心に出てくる言葉ではあるため使いたい、カタカナ言葉として広く市民に浸透するか懸念もある。
a r g 有尾	一人で居られるスペースはこまつベース。個人活動の起点として何かを蓄えていく場所としてキャンパス、人と人が集っていくことで何かが生まれることをコモンズと整理している。
山元委員	居心地のよい居場所、くつろげることは含まれているのか。
平賀座長	居場所を求める場所、つながる場所、発信する場、つくる場など様々な場所を求める人がいる中、図書館の館としてしまうと、本にまつわる人しか対象にならない。本を届けることで体験してほしい人に届かないことがないようにしたい。人それぞれ、その時々で求めるものは変わるが多くの人に届けたい。

a r g 有尾	もちろん、くつろげる、自由に過ごす居心地の良い場所づくりは機能としてぜひ目指したい。テキストとして表現が落ちていないか見直す。
平賀座長	居心地の良さは、「こまつベース：個の活動」にあたる。居場所というものが入っているか等については引き続き検討していきたい。
a r g 李	ビジョンとコンセプトはつなげて考えていきたい。コンセプトは3つに分けてそれぞれに機能をつけているが、それぞれがビジョンに繋がっている。検討手順として機能分けをしているが、使い方は人それぞれでよいことを示している。
事務局 横山	ビジョンの地域資源（ヒト・モノ・コト）を編むということが、コンセプトの「こまつベース」の基本としてまとめられており、「こまつコモンズ」や「こまつキャンパス」へ発展しつながっていくかたちはよいと感じている。
平賀座長	基本構想段階としてはこういう方向でまとめていく。思いついたことがあれば、引き続き共有いただきたい。
a r g 有尾	ビジョン・コンセプトともに本日の議論を受けてブラッシュアップしていく。

③未来型図書館の立地候補エリアについて事務局より説明（資料3）

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	立地候補エリアについては、第4回の委員会でも引き続き具体的に話合うこととするが、検討にあたっての視点等について意見をいただきたい。
山元委員	アクセスは重要。大型商業施設等と近いことなどがお年寄りにはやさしいのではないかと聞く。買い物とお風呂がキーワードと聞く。何かしらの工夫が必要。
平賀座長	情報については、市民協働、学校連携など様々なICT活用が考えられるが、リアルな場所はアナログで対応するなどどのような工夫ができるか検討を重ねたい。
久保委員	どこにできるかは、市民にとっても大変関心の高いテーマ。アクセスが一番大切と考えると、①芦城公園周辺、②小松駅周辺、③小松運動公園周辺か。
中村委員	車を持たない外国人も周りにたくさんいる。小松市役所や芦城公園内に図書館があるというのは場所の説明が難しい。車を持たない人にとって、1kmという距離は敷居が高い。今後高齢化も進み、車を持たない人が増えていくなれば、バスや電車でも訪れられることが条件であるのため、①芦城公園周辺、②小松駅周辺、③小松運動公園周辺、④栗津駅周辺まで、中でも②の声をよく聞く。車で来場するなら駐車場、駐車料金についても検討する必要がある。そう考えると①・②かと思う。
平賀座長	実際にどのくらいの人々が駅を利用しているかも調査が必要。新幹線も開通する。新幹線利用者が行く先など人流も含めた検討する必要がある。それを判断できる客観的なデータも欲しいところである。
廣田 委員代理	重要なのは、比較項目の「2. コンセプト」の内容が表現できる場所なのかということ。丁寧に練ってきたビジョンやサービスがしっかり提供できていれ

	ば人は集まる。表現したいこと提供したいサービスが何かから考える必要があると思うが、①芦城公園周辺、②小松駅周辺が妥当かと思う。
平賀座長	経済効果等を表層的に考えてしまいがちだが、提供するものや社会的な価値が核である。次回は、①芦城公園周辺、②小松駅周辺、③小松運動公園周辺などの可能性を具体的に話し合い、事業手法も併せて検討したい。

(2) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて a r g より説明（資料4）

(3) その他

未来型図書館ニュースレター第5号について事務局より説明（資料5）

次回、第4回策定委員会は12月12日（月）13時30分より公会堂にて開催予定。

以上